

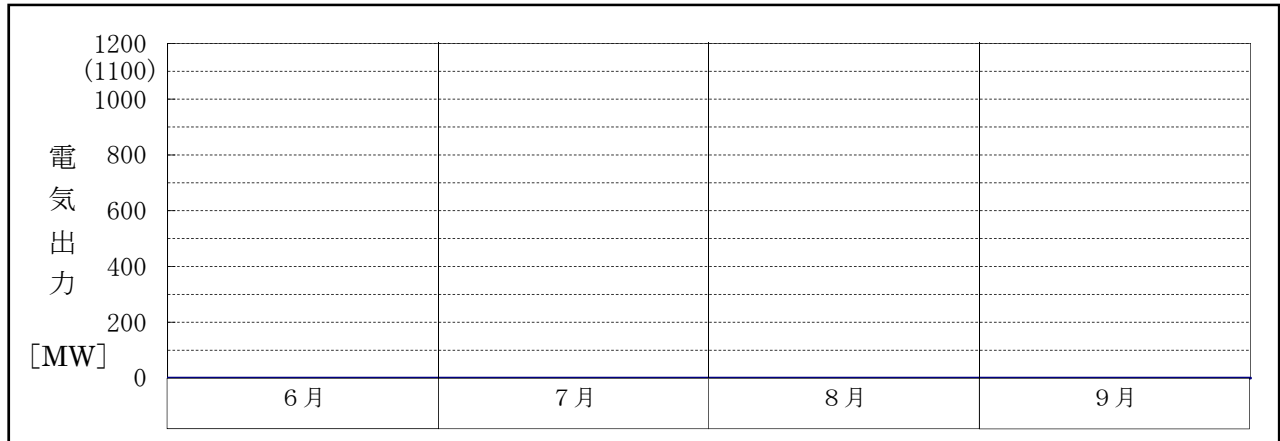
令和元年11月 5日
東北電力株式会社

東通原子力発電所の現在の状況について

1. 運転状況

- 平成23年2月6日より第4回定期検査を実施中

2. 電気出力（令和元年6月～令和元年9月）



3. その他

(1) 東通原子力発電所1号機における新規規制基準適合性審査の状況について

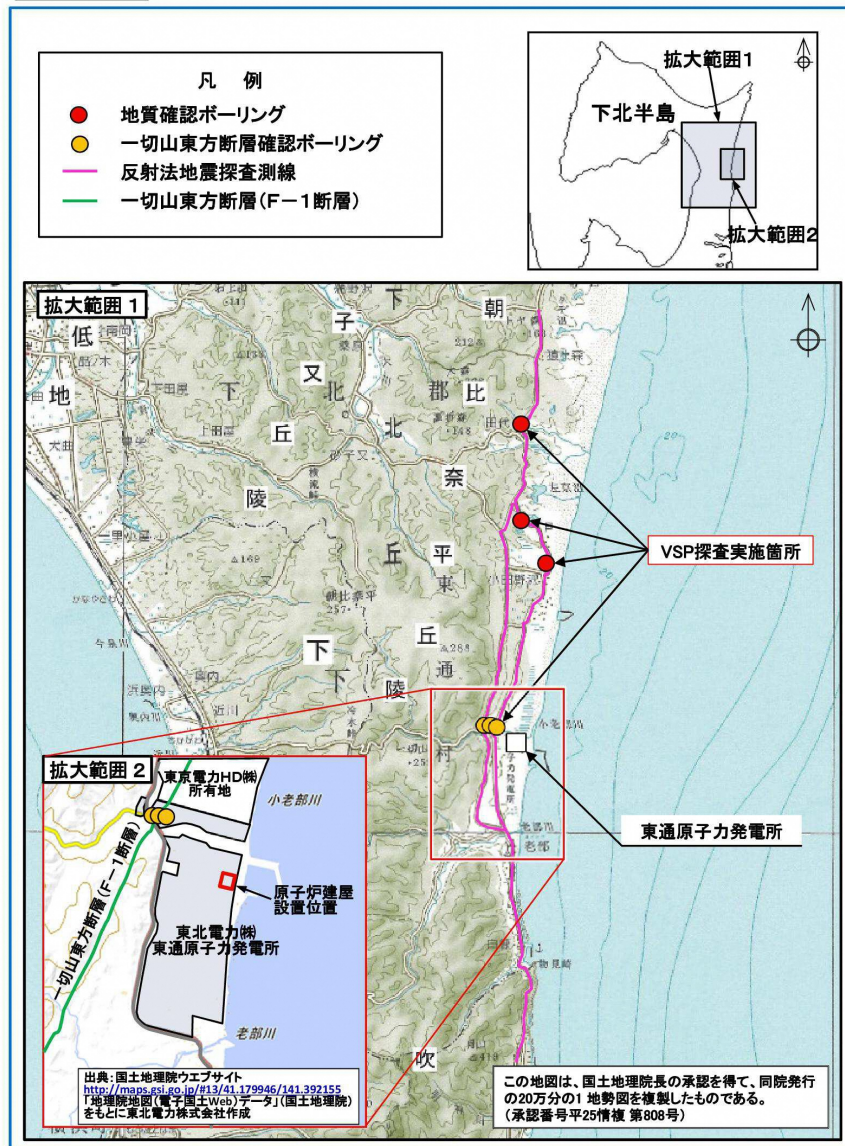
- 平成26年6月申請以降、継続的なヒアリングや審査会合において当社の申請内容を説明してきており、これまでに審査会合は19回開催されております。
- 平成31年3月27日から開始している補足調査は、当初、9月末に終了する予定としておりましたが、実際の地質状況を踏まえて慎重に作業を進めてきたことや、地下深部の掘削に時間を要したこと等により、一部の探査がわずかに残ったことから、調査完了の目標時期を見直して10月末に完了しております。
- 調査結果を踏まえた評価については、今後準備が整い次第原子力規制委員会に説明する計画としております。また、補足調査による新たなデータを必要としない審査項目については、先般（6月7日）、基準津波や敷地周辺（敷地を中心とする半径100km程度の範囲）の断層に関する審査会合が開催され、地震動評価についても、ヒアリングを開始しております。
- 当社としては、審査が効率的に進むよう、引き続き、必要な準備を進めてまいります。

(別紙) 東通原子力発電所の補足調査期間の見直しについて

詳細については、当社ホームページから確認することができます。
(<http://www.tohoku-epco.co.jp>)

東通原子力発電所の補足調査期間の見直しについて

1. 調査位置

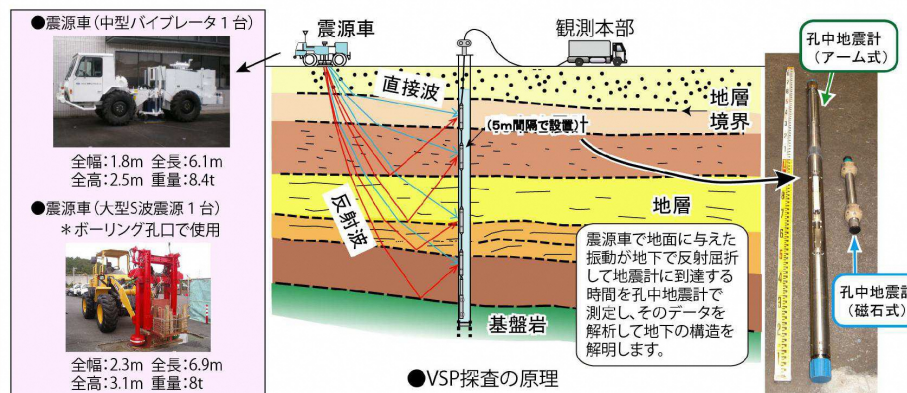


2. 補足調査のスケジュール(見直し後)

調査項目	~3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
調査準備	■							
①	反射法地震探査(VSP探査を含む)	■	■	■	■	■	■	■
	地表踏査・露頭調査	■	■	■	■	■	■	■
②	地質確認ボーリング	■	■	■	■	■	■	■
③	一切山東方断層確認ボーリング	■	■	■	■	■	■	■

凡例 ■ 当初計画 ■ 見直し後

3. VSP探査の概要



- VSP(Vertical Seismic Profiling)探査とは、地下構造を把握するための調査方法の一つ。具体的には、震源車(振動装置を搭載した車両)を用いて、地表で人工的に振動を発生させ、ボーリング孔内に伝わった振動を孔内に設置した地震計で観測することで、ボーリング孔周辺の地下構造について、より高精度の解析が期待できる。
- 通常の反射法地震探査(通常は地震計を地上に設置して振動を観測する)と組み合わせることにより、さらに詳細な地下構造を把握することが可能。
- 地質確認ボーリング(計3本)を対象としたVSP探査は9月末に終了。一切山東方断層確認ボーリング(最深部(600m)まで掘削した1本)を対象としたVSP探査は10月末に終了。